



テレマカシー

vol. **29**

2011.7.20発行

テレマカシーとは? ▶ Terima kasih=インドネシア語で感謝を表す言葉。在宅で看取らせていただいたある方は海外旅行が大好きでした。その方が最期にご家族に残された素敵な言葉を使わせていただきました。

暑中お見舞い申し上げます

このたび発足したうりぼうさんより
非常用発電機を2台いただきました
この場をお借りしてお礼申し上げます

暑い日が続きますのでお体ご自愛ください
2011年7月

ひばりクリニック・うりずん
高橋 昭彦



つながる力を引き出しながら 白十字訪問看護ステーション 秋山正子さん

去る7月2-3日、真岡市で在宅緩和ケアとちぎ主催の研修会がひらかれた。その中から、小児から超高齢者までひとつの家族をみていく訪問看護師の秋山正子さん(東京都)のお話を紹介する。



白十字訪問看護ステーション
統括所長・秋山正子さん

*
そこは4世代が暮らす家だった。秋山さんたちは、80歳代の認知症のある女性の訪問看護に入った。60歳代の息子さんは入院中で、その妻から夫の病状について相談を受けた秋山さんは、「こういうふう
に医者に聞いてみたら」とアドバイスする。

やがて、孫嫁さんが昼になるといなくなるのに気付く。聞くと、おっばいが飲めずに生まれてからずっと入院している子どもがいるという。このお母さんなら介護が出来そうだと考えた秋山さんは、「子どもにも訪問看護できます」という話をする。依頼を受けて、秋山さんは病院のソーシャルワーカーへ働きかけ、小児科医師と交渉してもらった。その小児科医が初の訪問看護指示書を書き、子どもは退院した。医療保険の訪問看護である。医療費についても自己負担がないように行政とやり取りをした。

子どもには3歳のお兄ちゃんがいたが、えらいいい子だった。とても気になった秋山さんは、お母さんをお兄ちゃんが独り占めにできる時間をつくろうと考えた。児童館で読み聞かせがある木曜日、その時間にあわせて訪問看護に行く。す

ると、お兄ちゃんはお母さんと手をつないでお出かけすることができた。

60歳代の息子さんが病院でなくなった。子ども達にとっては大好きなおじいちゃんだったが、病院では面会できなかった。葬式終わってからも、「おじいちゃんいつ帰ってくるの」と子どもは尋ねた。

やがて、80歳代の女性を家で看取った。その様子を子ども達はそっと見ていた。子ども達は「おばあちゃんいつ帰ってくるの」とは一度も聞かなかった。

*

小児から超高齢者までひとつの家族をみていく。家庭の中で生き死にをみていくことが、どれだけ地域にとって大切なことか。病院から話があるのを待つだけでなく、こちらから病院に働きかける。潜在ニーズを見つけ、つなげていく。ある意味やりすぎかもしれないが、こういうこともできる。

秋山さんの講演の後、県内で活躍する3名の方からの話題提供があった(写真)。病院で、緩和ケアで、そして地域でのつながる力をお話いただいた。つながる力があちらこちらで「流行」することを願ってやまない。



石橋総合病院
医療ソーシャルワーカー
栗本孝雄さん



自治医大
緩和医療医師
田實(たじつ)武弥さん



ゆいの里
ケアマネジャー
飯島恵子さん



「うりぼう」が歩き始めました!

～うりぼうは、「重症障がい児者 レスパイトケア施設「うりずん」と
ひばりクリニックの活動を支援する会「うりぼう」』の愛称です～



はじめまして。吉川かおりと申します。

上司である柚崎^{ゆざきみちすけ}通介教授(慶應大学医学部)のもとに、大学時代の同級生である高橋昭彦先生から送られてきたテレマカシーをはじめて読ませていただいてから7年。拝読するたびに、大切なことを教えられ、心を大きく動かされました。こと「うりずん」については、何かできることはないだろうか、と思いながら、動き出せずに過ごしてきました。

テレマカシー 28号にて地震の際のうりずんやクリニックの大変な状況を知りました。高橋先生も書かれていましたが、できるだけ早期に非常時や電力不足時の備えが必要だと、それには、周囲の力が必要だと感じました。賛同下さる方々のご協力を得て、非常用発電機を贈らせていただきたいと、柚崎教授とともに高橋先生にご相談したところ、快くご了承をいただき、始動の運びとなりました。柚崎教授の「うりずんってうりぼうと関係あるんやっただけ?」との発言から(ありません!)、このささやかな活動をする仲間を「うりぼう」と名付けました。

うりぼうは、うりずんを安心して利用・運営されることができるよう、また、うりずんとひばりクリニックが子どもの地域ケアの拠点として発展してい



▲うりぼう

れるよう、様々なかたちで応援していきたいと考えています。猪突猛進とはいかないかも知れませんが、「やらない理由を考えない」と退路を断ってうりずんをはじめられた高橋先生に習い、前を向いて、うりぼうのごとく元気に小さな歩みを続けて参りたいと思います。

きっと私と同じように、何かできればと思いながら機会を見つけれずにおられる方々が多いことと思います。小さな試みですが、うりぼうへの参加を通して、一緒にうりずんとひばりクリニックに声援を送りませんか。うりぼうでは、常時、皆様からのご寄付を募らせていただきますので、金額の多寡を問わずご支援のほどよろしく願いいたします。

*

はじめの一歩として、2つの支援のためのご寄付を募らせていただきます。

Aコース

**非常用発電機をうりずんと
ひばりクリニックに設置するために**

震災後、発電機が大変な品薄状態で、信頼できる機種ほとんどが秋から年明けの納期とのこと。クリニックに近い取扱店様にご相談したところ、うりずんの事情を酌んで、特別に分けていた

だけることになりましたので、うりぼうの立ち上げを待たずに非常用発電機2台を先行購入し、寄贈させていただきました。非常時に人工呼吸器2台を稼働させる



▲非常用発電機2台(うりぼうさんより)

ことができる小型で持ち運び可能なもの1台、うりずんとひばりクリニックが最低限機能するための発電が可能なもの1台、設置工事費用、計65万円を目標とします。

*

Bコース

**人工呼吸器をつけた高校生の修学旅行～
看護師ボランティア派遣のために**

《呼びかけの言葉 高橋 昭彦》

栃木県では、特別支援学校の看護師は校外学習には同行しない原則があります。そのため、親が同行しなければ、医療的ケアが必要な子どもは、遠足にも修学旅行にも参加できません。

ある日、うりずんと在宅医療を利用する高等部2年のゆうきさんのお母さんから相談を受けました。23年11月に、高等部の沖縄修学旅行が予定されていますが、お母さんは自分ひとりでの医療的ケアを行うことについて非常に不安を感じておられました。そこで、高橋からボランティアで看護師を確保するので、沖縄へ行きましようとおすすめしたのです。以後、お母さんは安心して沖縄行きを考えてくださるようになり、学校側の了解も得ました。

看護師は、ゆうきさんの訪問看護師である黒崎雅子さんをお願いしたところ、休みをとって出てくださいることになりました。学校では看護師をつける予算はないので、黒崎さんの交通費と宿泊



▲ゆうきさん(写真公開は了解済み)

代を確保しなければなりません。旅行費用(宿泊費・交通費など)の約10万円を確保したいのです。少しでもいいですからご支援をお待ちしています。これを機に、当院やうりずんに関わる子どもが修学旅行に行く際には、このような動きをできる範囲でしていきたいと考えています。

お振込み先

お振込み先は以下の通りです。
できるかぎり、お名前とご住所をお知らせください。また、どのコースのためのご寄付か、あるいは、他の使途へのご希望があれば、通信欄にご記入ください。

＜ゆうちょ銀行からのお振込み＞

口座番号：00170-2-441354 口座名：うりぼう

＜ゆうちょ銀行以外からのお振込み＞

店名(店番) 019(ゼロイチキュー)店

当座 口座番号：0441354 口座名：うりぼう

- お振込みして下さる方に手数料がかからないのは、以下の2通りです。
 - 1) こちらからお送りする赤色の振込用紙を使っていただく
 - 2) ゆうちょの口座をお持ちの方で、ATMを利用して、うりぼうへの振込み手続きをしていただく
- 振込(赤色)用紙を用意しておりますので、ご希望の際は、送付先をうりぼうまでお知らせください。
- うりぼうは、「人格なき社団」であり「認定NPO法人」ではないため、寄付金控除が適用されません。何卒ご了承ください。

うりぼう▶ 代表 吉川かおり / 副代表 袖崎通介 / イラスト by ゆり坊

メールアドレス▶ uribowithurizun@gmail.com *ぜひ、メッセージをお寄せください。

代表者連絡先▶ 〒336-0911 さいたま市緑区三室 636-72616 吉川かおり

代表・副代表所属先 URL▶ <http://www.yuzaki-lab.org/> (慶應義塾大学医学部生理学袖崎研究室)



うりずん日記 うりずん サービス管理責任者 看護師 三上綾子



早いものでうりずんも4年目に入り、先月から非常勤看護師1名が入職しました。よろしくお願いいたします。1年前に入職した非常勤の介護職2名もすっかり慣れ、今度は先輩として利用者の個性を伝達する立場となりました。常勤の介護職1名は入職して3年目、今では三上の片腕として欠かせない存在です。今後スタッフ全員で切磋琢磨しつつ、チームワークを大切にしながら、利用者ご家族に満足していただけるよううりずんでありたいと思います。



▲なんだか笑っちゃうな～

不思議なもので、利用者の皆様も最近では、「教えてあげるよ!」「大丈夫だから怖がらないで。」「もっと自分たちのことを知ってね!」と言わんばかりに、慣れないスタッフにとっても協力してくれるのです。そして、新しい利用者、少し不調な利用者がある時は、「いろいろ教えてあげるね。」「大丈夫かな?」「一緒に遊ぼうよ!」というように気遣う様子が伺えます。



▲七夕の願い事



▲みんなの願いが叶いますように

そんな利用者の姿を見るたびに、利用者の成長を感じ、大変嬉しく思います。同時に「うりずんは利用者にも成長させられているな～」と感謝の気持ちでいっぱいになります。1日1日、ゆっくりと成長していく利用者の皆さんと、これからも一緒に歩んで行こうと思う瞬間でもあります。

*

さて、ここでお知らせがあります。以前から鹿沼市、塩谷町の方がうりずんを利用したいという要望があり、自治体と検討を重ねてきました。このたび、「鹿沼市重症障害児者医療的ケア支援事業」「塩谷町重症障がい児者医療的ケア支援事業」を制定していただくこととなり、7月より鹿沼市、塩谷町と受託契約を締結いたしました。現在、うりずんが受託契約を結んでいる自治体はこれで5自治体となりました。これをきっかけとして、それぞれの地域で利用者ご家族が困らずに、そして、使いやすいサービスが拡大していくことを願います。

来年のうりずん5年目はどうなっているのか想像が付きませんが、一歩また前進したうりずんになるように、4年目を過ごしたいと思います。



▲滑り台に初挑戦



▲外で一緒にランチよ



▲テレマカシーの発送のお手伝いよ

●2011年 4月～6月のご利用状況

区分	4月	5月	6月	合計
A	13	18	17	48
B	20	32	26	78
計	33	50	43	126

* 区分A………人工呼吸器装着の方
* 区分B………人工呼吸器を必要としない方
* いずれも延べご利用人数です

●2011年 4月～6月のご来所状況

	4月	5月	6月	合計
見学者	7	3	17	27
ボランティア	0	3	0	3
計	7	6	17	30

* ボランティアは延べ人数です

●現在の登録状況

区分A(人工呼吸器装着の方)	4名
区分B(人工呼吸器を必要としない方)	11名
合計人数	15名
契約準備中の方 区分A	0名
契約準備中の方 区分B	1名
契約準備中の方の合計人数	1名

* 登録ご利用者の年齢………2歳～18歳

●2011年 4月～6月の寄付関係

ご寄付	8件
ご寄贈品	3件

わっどわ〜く

第2回日本小児在宅医療・緩和ケア研究会のお知らせ

●子どもに関する集まりがあります。
多くの方のご参加をお待ちしています。

日時 2011年9月3日(土) 13:30~18:00(開場13:00)

場所 聖路加看護大学講堂(東京都中央区明石町10-1)

テーマ 小児在宅医療・小児緩和医療の現在(とき)、そして未来

▶シンポジウム1「小児在宅医療の現状」

座長：高橋 昭彦氏 (ひばりクリニック)
梶原 厚子氏 (訪問看護ステーションほのか)
演者：二ノ坂保喜氏 (にのさかクリニック)
田村 正徳氏 (埼玉医科大学総合医療センター 小児科)
大塚 孝司氏 (人工呼吸器をつけた子の親の会(バクバクの会))

▶シンポジウム2「小児の end-of-life care」

座長：天野 功二氏 (静岡県立こども病院 緩和ケアチーム)
高宮 有介氏 (昭和大学医学部 医学教育推進室)
演者：細谷 亮太氏 (聖路加国際病院 小児科総合医療センター)
多田羅亀平氏 (大阪市立総合医療センター 小児内科)
松岡 真里氏 (名古屋大学大学院 健康発達看護学)

▶特別講演「3.11 東日本大震災が明らかにした我が国の重症児支援の問題点」
宮城県拓桃医療療育センター 小児科医療部長 田中総一郎氏

●申込み方法：当日、直接会場へお越しください。

●参加費：2,000円

〈運営事務局〉

子ども在宅クリニック あおぞら診療所墨田 (担当/小澤さん・稲葉さん)

東京都墨田区本所吾妻橋1-9-8 Human ハイム吾妻橋101
TEL 03-6658-8792 FAX 03-6658-8793



テレマカシー28号へ
寄せられた感想から

●自然界は人間の世界と関係なく季節を進めて行きます。打ちのめされたり、救われたりですね。テレマカシー28号届きました。事業を立ち上げるのも大変ですが、継続させることはもっと大変ですね。当面は先生の双肩にかかっています。何卒ご自愛ください。

(宇都宮市 関口忠司さん)

●こんな時だから、毎日のありふれた日常を繰り返せる喜びをかみしめつつ、子ども達とできる限りの「いつもと同じ」園生活を過ごしたいと思っています。…中略…あのときは大変だったと思い返せる日が来る時を楽しみにしたいと思っています。…後略…

(宇都宮市 大門美砂子さん)

●ほか、ご意見多数。

♥震災に際し、お見舞いを下さった皆さん、テレマカシー発送用に切手をお送りくださいました皆さん、ありがとうございました。<(_)>

東日本大震災・緊急支援募金

♥ご支援いただいた募金は、東日本大震災・緊急支援募金として、自治医科大学へ20,543円、とちぎボランティアネットワークへ29,523円送金いたしました。ご協力ありがとうございました。<(_)>

うりぼうのイラストレーター、ゆり坊さんからのコメントです。

イラストは手描きで描いています。メインのもの(2面)はアクリル絵の具、色鉛筆、カラーインクと色々混ぜています。絵本に出てくるキャラクターみたいに、小さい子が見ても大人が見ても取っつきやすい感じにしたいと思ったので、うりぼうにもニコニコしてもらいました。HIBARIバージョンのイラストが4作できました。(ゆり坊)



「ひばりクリニック」のご案内

● 診療時間 ●

時間	日	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	(休)	○	○	(休)	○	訪問診療	○
午後 (在宅医療)	(休診)	訪問	訪問	(休診)	訪問		訪問

● ひばりクリニックの運営理念 ●

- 1) 在宅で過ごされるご利用者に出前の医療を提供すること
- 2) 子どもからお年寄りまで診る家庭医の機能を提供すること
- 3) 障がい児・者やお年寄りの生活を支える市民活動を支援すること



〒321-2118 栃木県宇都宮市新里町丙357-14
TEL 028-665-8890 FAX 028-665-8899
E-mail hibari-clinic-01@theia.ocn.ne.jp
URL http://hibari-clinic.com/



栃木県宇都宮市の北西部、新里町(にっさとまち)にある、ログハウス風の小さな診療所です。

- JR宇都宮駅から「ろまんちっく村」バス約35分
- お車で 東北自動車道 宇都宮ICより5分 宇都宮ろまんちっく村 入口向かい側

●この通信は、子どもから大人まで、障がいのある人もない人もどんな人も社会から排除されることなく、地域で一緒に生きていける世の中を目指して、ひばりクリニックが企画・編集しております。この通信についてのご意見・ご感想はひばりクリニックまでお寄せください。